

広島市植物公園 見どころ案内

今週の
見どころ案内
掲載植物

現場にはこの表示
がしてあります。

2022年10月1日
通巻第558号

展示会のご案内

- ① 展示資料館 (9/23~12/25)
特別企画展「コケの不思議展」
野生きのこ展 (10/1~2の2日間のみ)
- ② 展示温室 (10/8~10/23)
サボテン・多肉植物展
- ③ 屋外展示場 (10/1~10/6)
秋の山野草展

シラヤマギク (キク科)

日本・朝鮮・中国・シベリア原産。春先の若い葉(ロゼット葉)は食べられることから、同属の嫁菜(ヨメナ)と対比して、別名は婿菜(ムコナ)。

バタフライピー (マメ科)

花びらの形から蝶豆とも呼ばれます。緑のカーテンとして用いられるほか、花を煮出した「青いお茶」が有名。

ヒガンバナ (ヒガンバナ科)

お彼岸も終わり、ヒガンバナも見ごろの終盤です。

フジバカマ (キク科)

中国原産の多年草で秋の七草の一つ。淡い赤紫色の花が多く咲いています。「旅する蝶」で有名な植物。

ワタの実 (アオイ科)

インド原産。ワタの実が弾けて出てくる繊維(種子の周囲についているもの)から木綿を作ります。

クルクマ・オオオニバス

ケイトウ (ヒユ科)

風になびく紫色の穂が一面に広がっています。オレンジ色のジニアとの組み合わせをお楽しみください。

ウスギモクセイ (モクセイ科)

中国原産。花の色はクリーム色で、橙色のキンモクセイ、白色のギンモクセイと花で見分けられます。

ハイビスカス・アーノッティアヌス (アオイ科)

ハワイのオアフ島に自生するハイビスカス。大輪の白花は品種改良に重要な役割を果たしました。

サガリバナ (サガリバナ科)

花は夜に咲き、翌朝には落花します。曇天時には午前中まで花が残っていることも。

ホトトギス (ユリ科)

日本固有種。花のまだら模様をホトトギスのからだの模様に見立てて名付けられました。



★大温室で見頃の花 サガリバナ、ゴクラクチョウカ、コチョウランほかラン類、カカオ、ハイビスカス、ゴールデンチェーンツリー、マツリカ、イクソラ、クパノラ[ミスレンブ、マンゴー、バナナ、レッドパイナップル、パパイヤ、ココヤシ、ソーセージノキ、コーヒー、パニラ(以上は果実)]